

# 守山企業景況調査報告書

(第43回)

令和2年4月～令和2年6月期 実績

令和2年7月～令和2年9月期 見通し

# 守山企業景況調査について

(令和2年4月～令和2年6月期)

## 1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 69 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

## 2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	14	70.0%
製造業	13	10	76.9%
建設業	12	10	83.3%
サービス業	19	14	73.7%
卸売業	5	4	80.0%
合計	69	52	75.4%

## 3. 調査期間

調査期間は、実績を令和2年4月～令和2年6月、見通しを令和2年7月～令和2年9月とし、調査時点は令和2年7月31日とした。

## 4. 調査データについて

調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とはDIffusion Index（景気動向指数）の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算（経常利益）」、「従業員」のDI指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」のDI指数は3カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算（経常利益）の水準」のDI指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

## 調査の概要

令和2年4月～令和2年6月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

令和2年4月～6月期の調査結果では、売上高、資金繰りの2指標の数値が低下した。業況は0.4ポイント、採算は4.9ポイント上昇した。

### <業況>

業況DIは▲51.9で前回調査の▲52.3から0.4ポイント上昇した。業種別では、小売業▲64.3（前回調査比+12.6）、製造業▲50.0（前回調査比+20.0）、建設業▲30.0（前回調査比▲30.0）、サービス業▲57.1（前回調査比▲7.1）、卸売業▲50.0（前回調査比▲16.7）と小売業と製造業では上昇した。

7月～9月期見通しは全体で▲60.0であり、数値は低下している。

### <売上高>

売上高DIは▲46.2で前回調査の▲42.2から4ポイント低下した。業種別では、小売業▲64.3（前回調査比▲2.8）、製造業0.0（前回調査比+50.0）、建設業▲60.0（前回調査比▲85.0）、サービス業▲57.1（前回調査比▲2.9）、卸売業▲25.0（前回調査比+25.0）であり、製造業と卸売業で上昇した。

7月～9月期見通しは全体で▲58.3となっており、低下である。

### <採算（経常利益）>

採算（経常利益）DIは▲46.2で前回調査の▲51.1より4.9ポイント上昇した。業種別では、小売業▲64.3（前回調査比+12.6）、製造業▲30.0（前回調査比+40.0）、建設業▲30.0（前回調査比▲30.0）、サービス業▲50.0（前回調査比±0.0）、卸売業▲50.0（前回調査比▲25.0）で建設業と卸売業は低下した。

7月～9月期見通しは全体で▲58.3であり低下の見通しである。

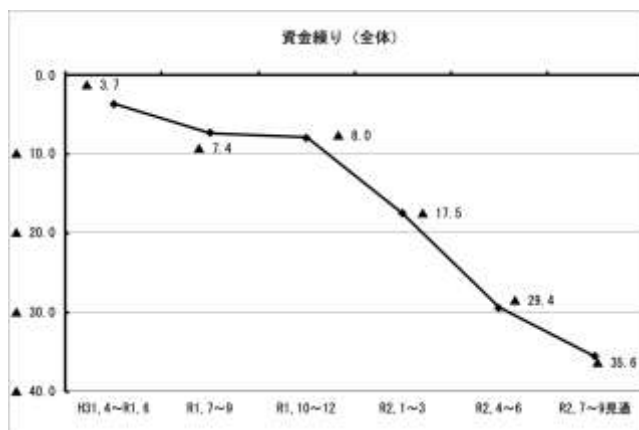
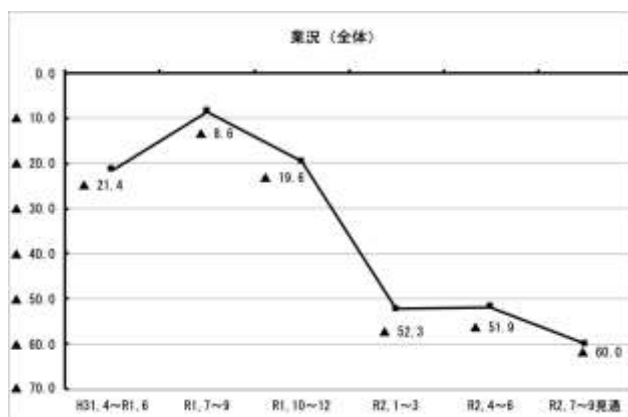
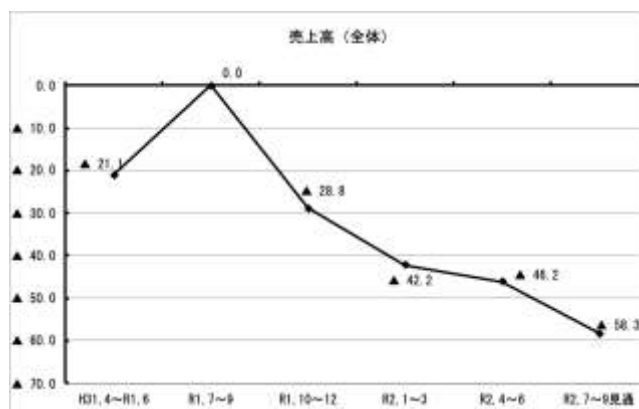
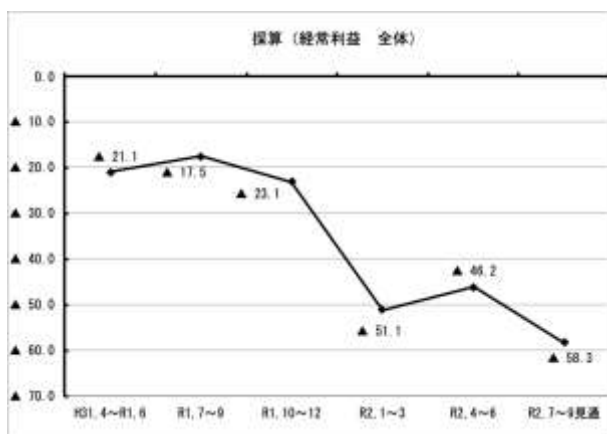
### <資金繰り>

資金繰りDIは▲29.4で前回調査の▲17.5から11.9ポイント低下した。業種別では小売業▲50.0（前回調査比▲13.6）、製造業▲22.2（前回調査比▲22.2）、建設業0.0（前回調査比±0.0）、サービス業▲42.9（前回調査比▲5.4）、卸売業0.0（前回調査比±0.0）であった。

7月～9月期見通しは全体で▲35.6であり、今回調査実績から低下している。

<その他の意見>

- ・ 事業ごとにコロナの影響などばらつきが非常に大きく、生産調整を実施せざるを得ない工場がある。
- ・ ベトナム海外研修終了生が帰国できない。生活支援などで困っている。
- ・ 当面の民間受注はコロナ前受注確定分で、今後発注元の資金難により遅れて影響が出る可能性が高い。
- ・ とにかく元の状態に戻らないと経営がもたない。
- ・ ゆっくりかまえて開き直った経営をしている。



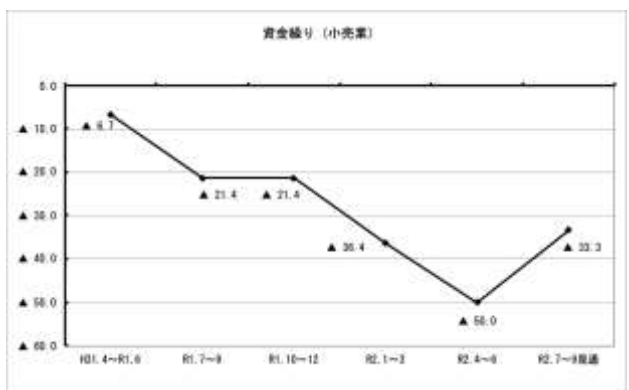
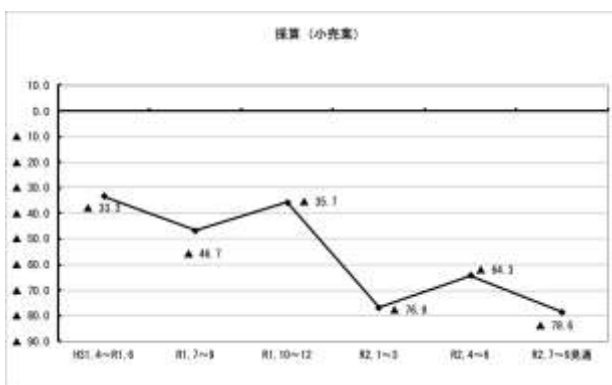
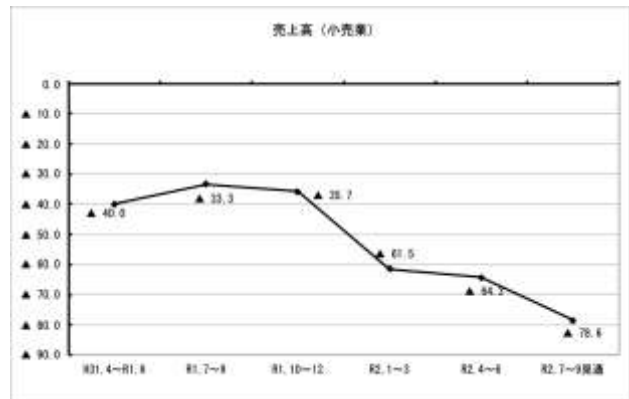
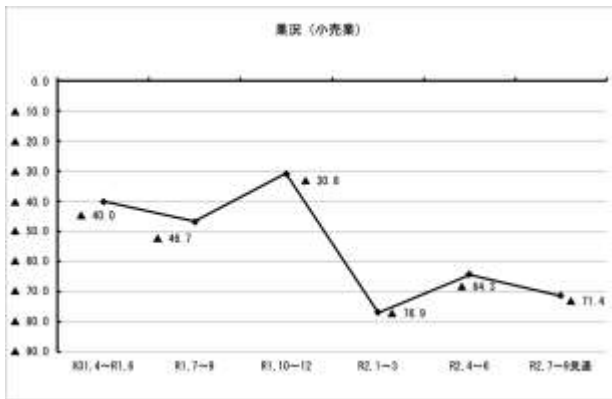
## 小売業

小売業の業況DIは▲64.3で前回調査に比べて12.6ポイント上昇した。前回調査の結果が▲76.9と非常に低い値であったが今回調査では少し持ち直した。7月～9月期見通しは▲71.4と再び低下しており回復は見込まれていない。

売上高DIは▲64.3で前回調査に比べて2.8ポイント低下した。前回調査は▲61.5で前々回調査に比べて25.8ポイント低下したが今回調査も同じような値になった。7月～9月期見通しは▲78.6とさらに低下になっており先行きが見通せていない。

採算（経常利益）DIは▲64.3で前回調査より12.6ポイント上昇した。前回調査は▲76.9と非常に低い値であったので今回調査ではそれに比べて上昇することができた。7月～9月期見通しは▲78.6と下っているので採算面でも先が見えないようである。

資金繰りDIは▲50.0で前回調査に比べて13.6ポイント低下した。資金繰りは1年前の▲6.7から低下傾向のまま来ており、今回調査ではかなり低い値となった。7月～9月期見通しは▲33.3で上昇が見込まれている。



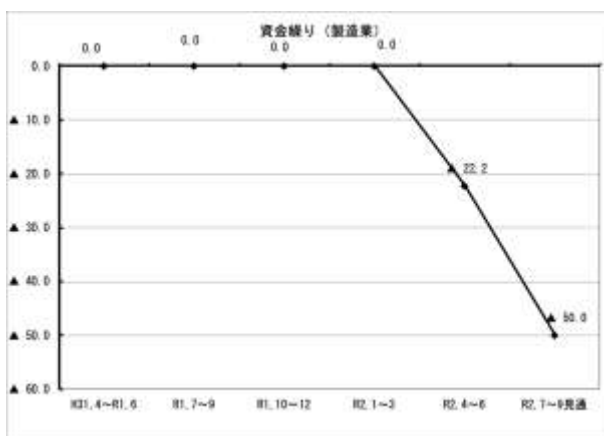
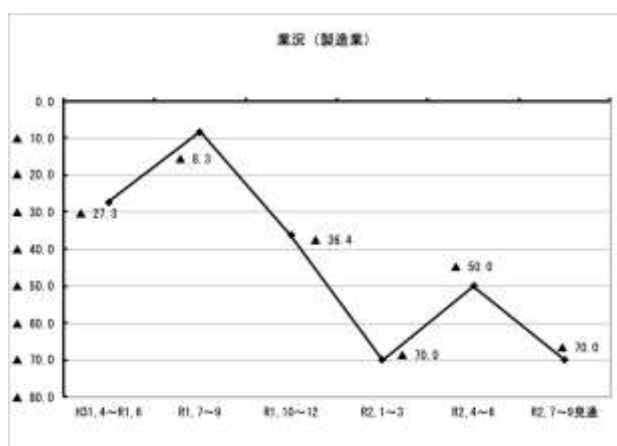
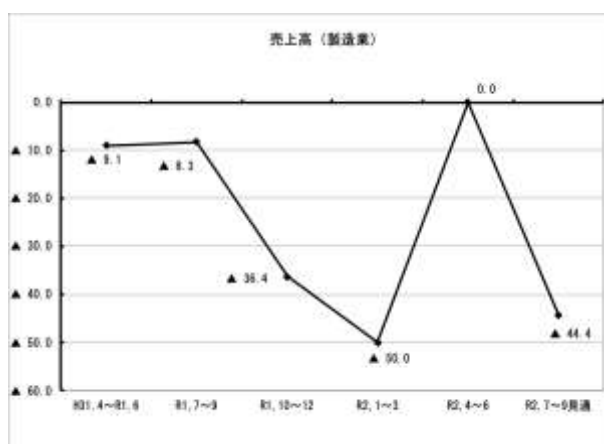
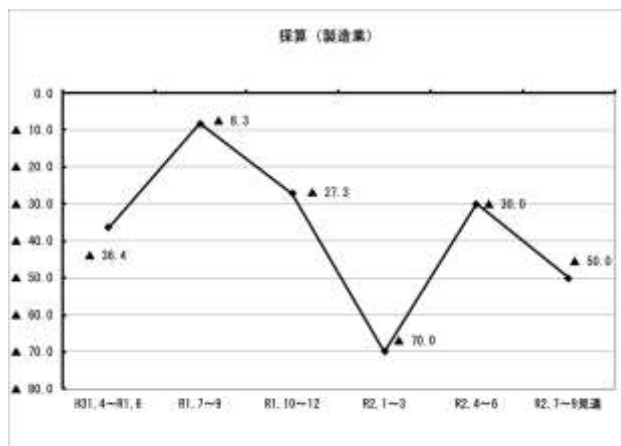
## 製造業

製造業の業況 DI は▲50.0 と前回調査に比べて 20 ポイント上昇した。前回調査では ▲70.0 と非常に低い値であったのでそれと比べると上昇ではあるが ▲50.0 という値自体が非常に低いといえる。7 月～9 月期見通しは ▲70.0 と再び低下となっており相当厳しい状況である。

売上高 DI は 0.0 で前回調査と較べて 50.0 ポイント上昇した。0.0 ということは売上高が上昇した事業所と低下した事業所の数が同数ということで、製造業の中でも明暗が分れたようである。7 月～9 月期見通しは ▲44.4 で見通しは厳しい。

採算 DI は ▲30.0 で前回調査より 40 ポイント上昇した。前回調査が ▲70.0 という相当低い値であったのでそこからは大きく回復しているが、悪化しているという回答の方が多いことには変わりない。7 月～9 月期見通しは ▲50.0 で再び低下する見込みになっている。

資金繰り DI は ▲22.2 で前回調査の 0.0 から 22.2 ポイント低下した。資金繰りは安定的な動きを過去からしていたが、今回調査で 20 ポイント以上低下した。7 月～9 月期見通しはささらに低下して ▲50.0 であり、資金繰りの悪化が懸念される。



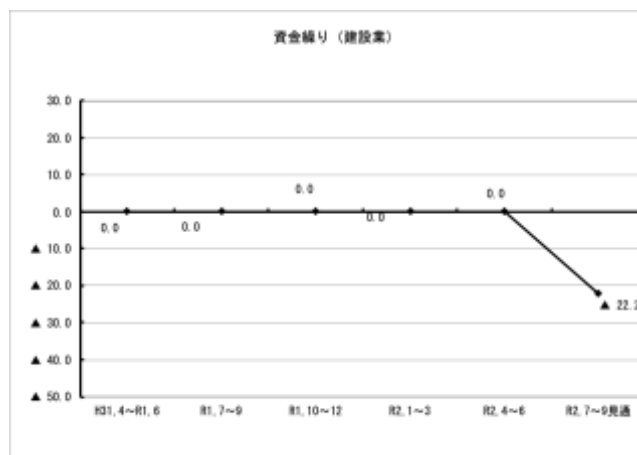
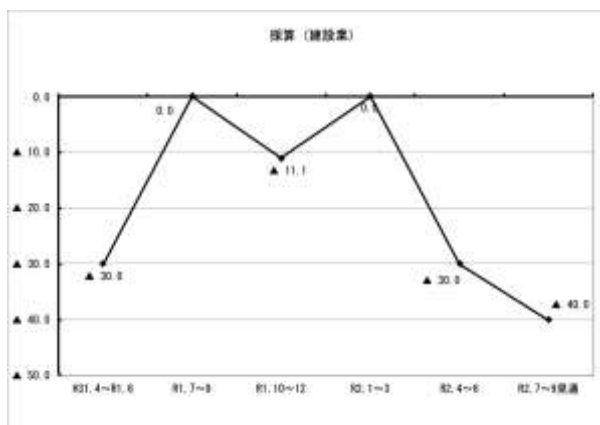
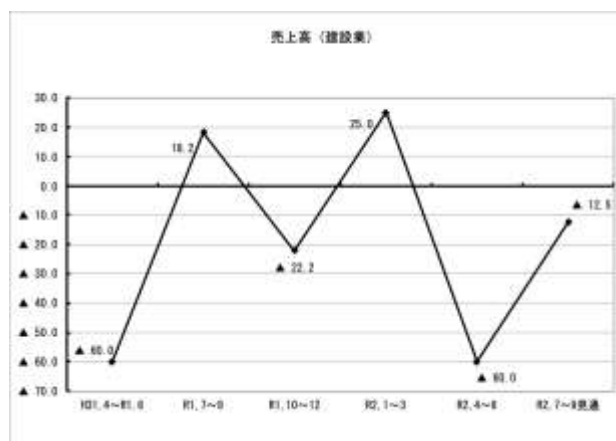
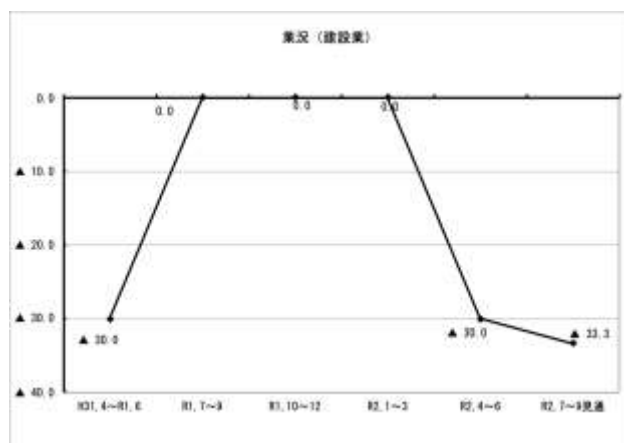
## 建設業

建設業の業況DIは▲30.0であり前回調査から30ポイント低下した。建設業の業況は前回調査とその前2回の調査では0.0であったので、今回調査で一気に低下方向に動いた。7月～9月期見通しは▲33.3とわずかに低下の見込みになっている。

売上高DIは▲60.0で前回調査より85ポイント低下した。前回調査の25.0から大きな低下である。ただ、7月～9月期見通しが▲12.5となっているところを見ると、今回調査の▲60.0は特異値である可能性も高い。

採算DIは▲30.0で前回調査より30ポイント低下した。建設業の採算DIは調査ごとに上下しており、今回は低下の順であるのでその傾向通りなのかも知れない。ただし、7月～9月期見通しは上昇の順であるが調査では▲40.0と低下している。

資金繰りDIは0.0で前回調査と同じである。過去5回の調査で0.0と安定して動きを見せている。しかし、7月～9月期見通しは▲22.2と資金繰りの悪化が懸念される結果になった。



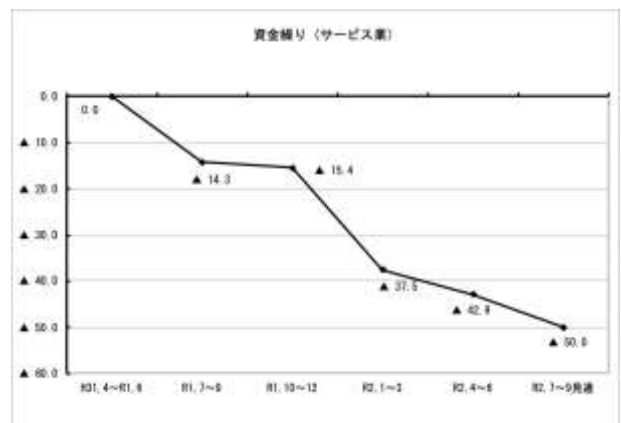
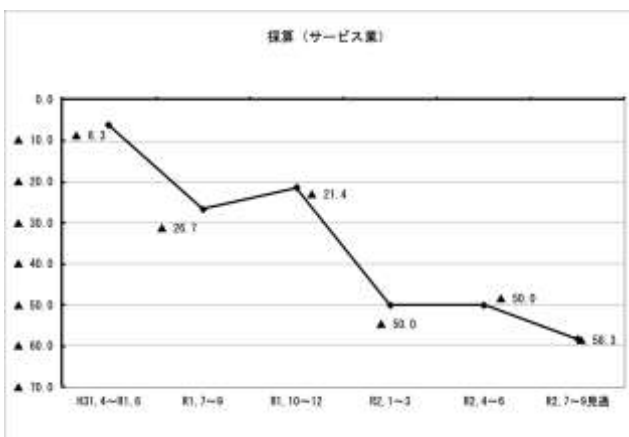
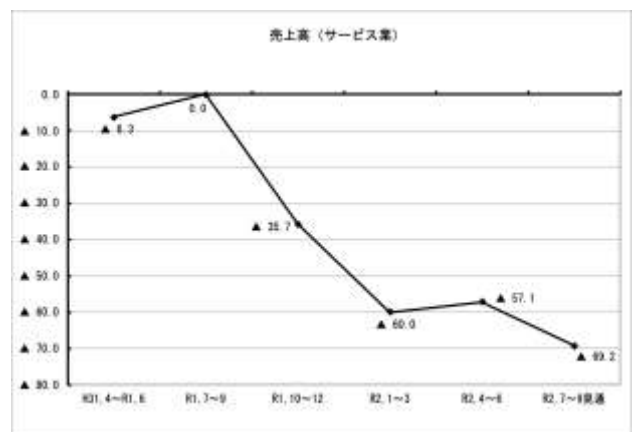
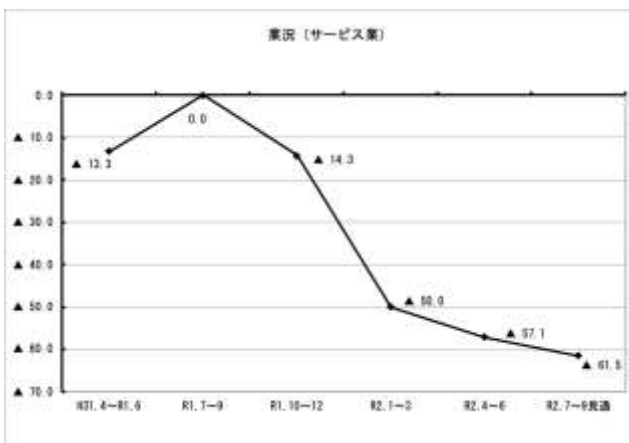
## サービス業

サービス業の業況DIは▲57.1で前回調査より7.1ポイント低下した。前回調査で▲50.0と前々回調査から35.7ポイントと大きく低下したまま今回調査を迎えたようである。7月～9月期見通しでも▲61.5とさらに低下しており厳しい状況が続くようである。

売上高DIは▲57.1で前回調査より2.9ポイント上昇した。売上高は前々回調査で35.7ポイント下げ、前回調査でさらに24.3ポイント下げたので上昇とは言うもののかなり厳しい値である。7月～9月期見通しは▲69.3と再び低下の見通しとなっており厳しさが現れている。

採算DIは▲50で前回調査と同じであった。個別の回答を見ると、数は少ないが採算が好転したとするものもあることが注目される。7月～9月期見通しは▲58.3と低下しており、好転の回答数が減少していることがわかる。

資金繰りDIは▲42.9で前回調査より5.4ポイント低下した。前回調査で▲37.5となった資金繰りDIであるが今回調査でさらに低下している。7月～9月期見通しも▲50.0となっており、資金繰りにも厳しさがでてきている。





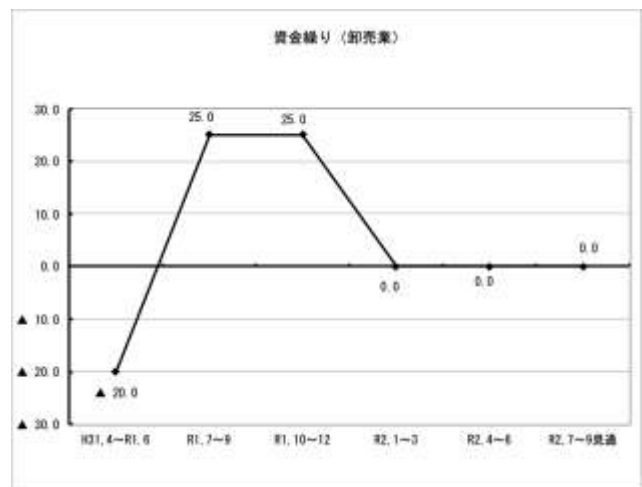
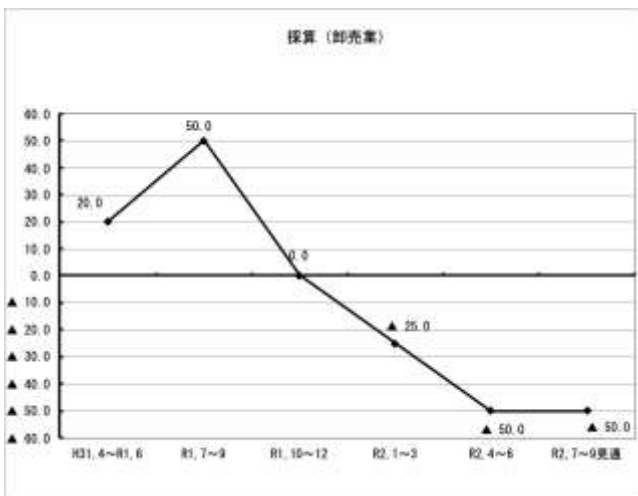
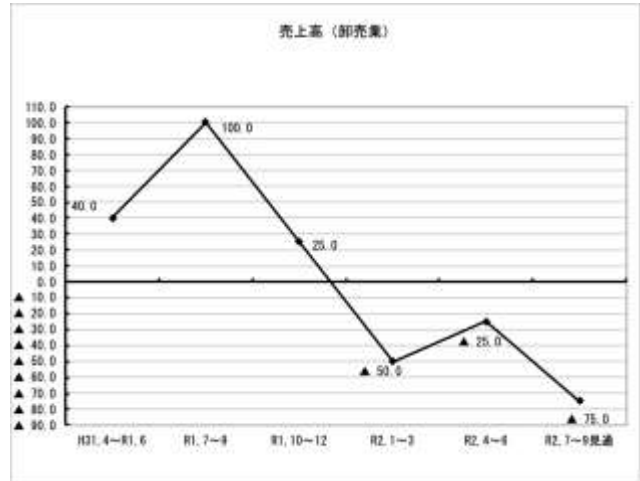
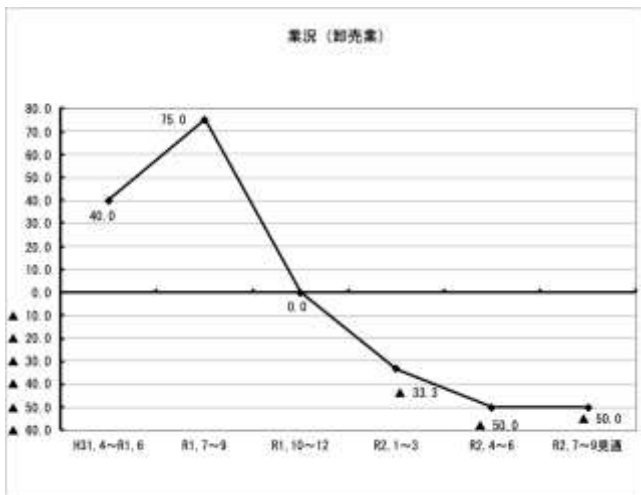
## 卸売業

卸売業の業況DIは▲50.0となり前回調査と比べて16.7ポイント低下した。令和2年に入り、2四半期連続での低下である。令和元年7月～9月期が75.0であったことを考えると大幅な低下である。令和2年の7月～9月期見通しも▲50.0で上昇の見通しは立っていない。

売上高DIは▲25.0で前回調査より25ポイント上昇した。前回調査が▲50.0であったので25ポイントの上昇ではあるがマイナスの数値であることには代わりがない。7月～9月期見通しは▲75.0で今後さらに低下する見通しである。

採算DIは▲50.0で前回調査に比べて25ポイント低下した。採算も令和2年に入ってから▲25.0、▲50.0と続けてマイナスの値であり、令和元年とは大きく状況が変化した。7月～9月期見通しも▲50.0で上昇には至らない見込みである。

DI資金繰りDIは0.0で前回調査と同じであった。卸売業の資金繰りは安定的な動きを見せている。7月～9月期見通しも0.0なので、安定していると考えられる。



## DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し
全 体	▲ 51.9	▲ 60.0	▲ 46.2	▲ 58.3	▲ 46.2	▲ 58.3
小売業	▲ 64.3	▲ 71.4	▲ 64.3	▲ 78.6	▲ 64.3	▲ 78.6
製造業	▲ 50.0	▲ 70.0	0.0	▲ 44.4	▲ 30.0	▲ 50.0
建設業	▲ 30.0	▲ 33.3	▲ 60.0	▲ 12.5	▲ 30.0	▲ 40.0
サービス業	▲ 57.1	▲ 61.5	▲ 57.1	▲ 69.2	▲ 50.0	▲ 58.3
卸売業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 75.0	▲ 50.0	▲ 50.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し
全 体	▲ 21.2	▲ 26.9	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 6.4	▲ 9.1
小売業	▲ 42.9	▲ 42.9	▲ 58.3	▲ 50.0	0.0	▲ 9.1
製造業	0.0	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 70.0	10.0	12.5
建設業	▲ 10.0	0.0	▲ 50.0	▲ 40.0	12.5	11.1
サービス業	▲ 35.7	▲ 28.6	▲ 57.1	▲ 57.1	▲ 28.6	▲ 41.7
卸売業	25.0	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 75.0	▲ 25.0	0.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し
全 体	▲ 29.4	▲ 35.6	12.2	5.0	5.1	2.6
小売業	▲ 50.0	▲ 33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
製造業	▲ 22.2	▲ 50.0	11.1	11.1	11.1	11.1
建設業	0.0	▲ 22.2	0.0	11.1	0.0	0.0
サービス業	▲ 42.9	▲ 50.0	27.3	0.0	0.0	0.0
卸売業	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0

# 過去からの動向

